

## 第 243 回 日本経営倫理学会・理念哲学研究部会の議事録

部会長 村山元理

日時 令和元年 5月27日(月) 18:00-20:00

場所 企業家ミュージアム (丸和ビル2F 外神田2-2-19)

参加者 古山、長塚、宇佐神、新川、緒賀、望月、村山 7名

欠席届 青木、佐藤(休会)、辻井(休会)、井上、山本(体調不良)

研究報告 緒賀正浩 「道德教育に流入する社会心理学の知見について」

概要 別紙のレジюмеにもとづき、日本の道德教育に持ち込まれている倫理思想について。すなわちアメリカの社会心理学の近年の議論から実証主義的な立場から構築された新たな倫理思想の流れがあり、その2名の学者を中心に解説。

- ・日本の道德教育の急激な改編と「多面的・多角的な思考」がキーワードに。
- ・心理学的には功利主義と義務論は対立するものでなく、人によって状況によって使い分けられた倫理のロジックとなっている。道德規範の使分けには、感情的な要因が強いという仮説。
- ・道德基盤理論：リベラリズム(公正と危害防止の原則)に替わる、5つの道德的基盤。
  - ・・・・この理論が本部会の分析材料に援用できるのではないか。
- ・動物としてのヒトがもつ道德性：互惠的利他主義
- ・道德部族の deep pragmatism 6つのルール。
- ・上皇陛下のビデオメッセージ(象徴としての務めを果たすことが難しい・・・)は教育勅語の精神の完成とみなせる。

今後の予定

6月24日(月) 宇佐神 「世界史への一つの視点と経営倫理」

7月22日(月) 未定